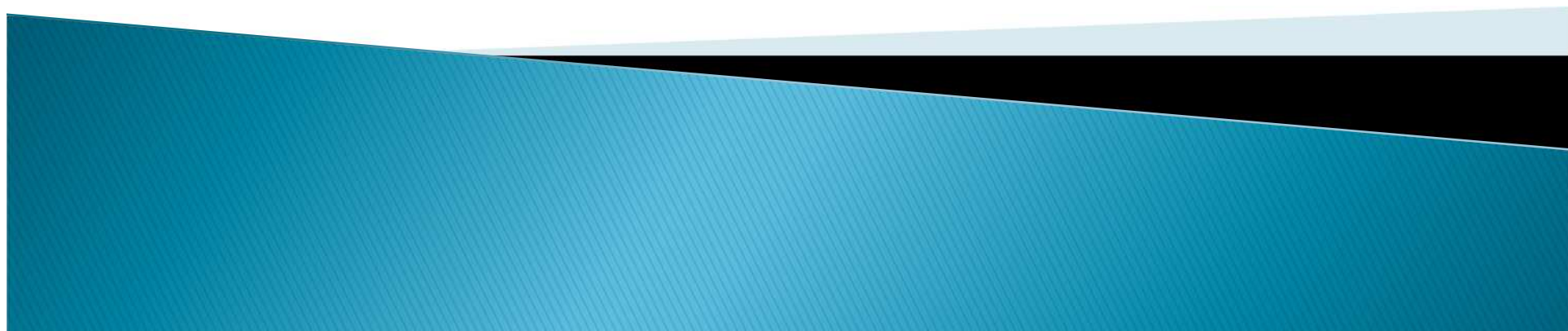
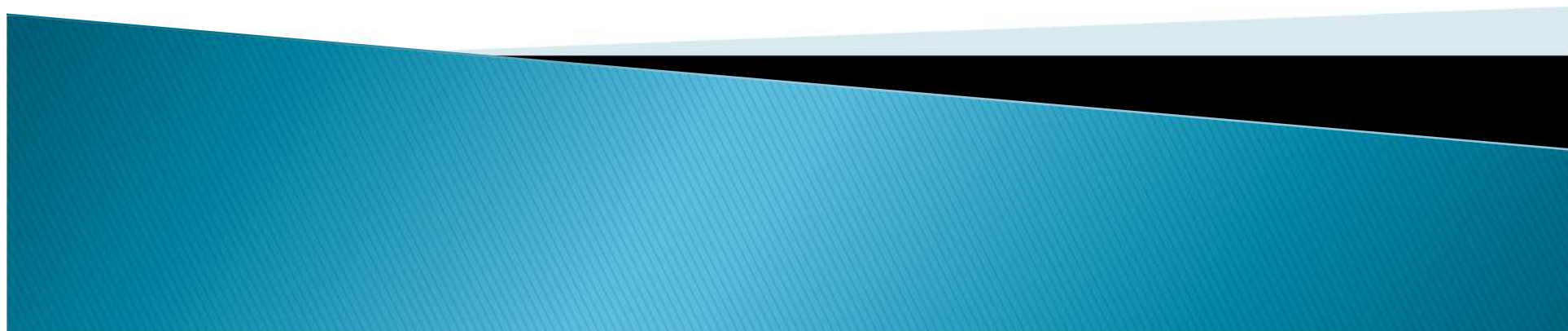


# 安全衛生管理推進計画の 策定にあたって



1 なぜ、安全衛生管理推進計画を  
策定するのか



# 目的

- 事業場内の安全衛生管理の現状把握
- 安全衛生管理上の問題点(危険有害要因)を捉える

改善に向けての目標、実施事項を定め、計画的、体系的に改善し、安全衛生水準の向上を図る



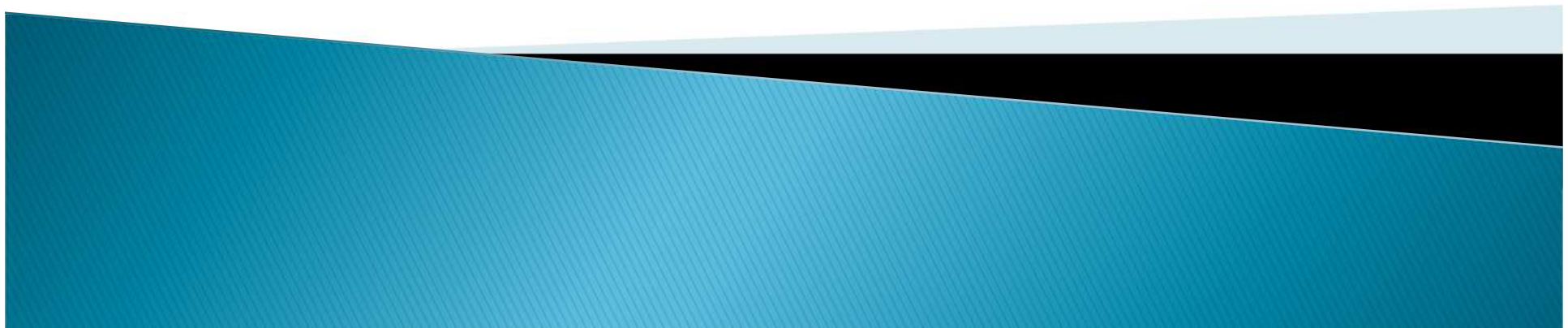
場当たりの対策や、労働災害の再発防止対策のみでは、その時その場の安全衛生確保はなされても、継続的な職場全体の安全衛生確保には結び付きにくく効果が薄い



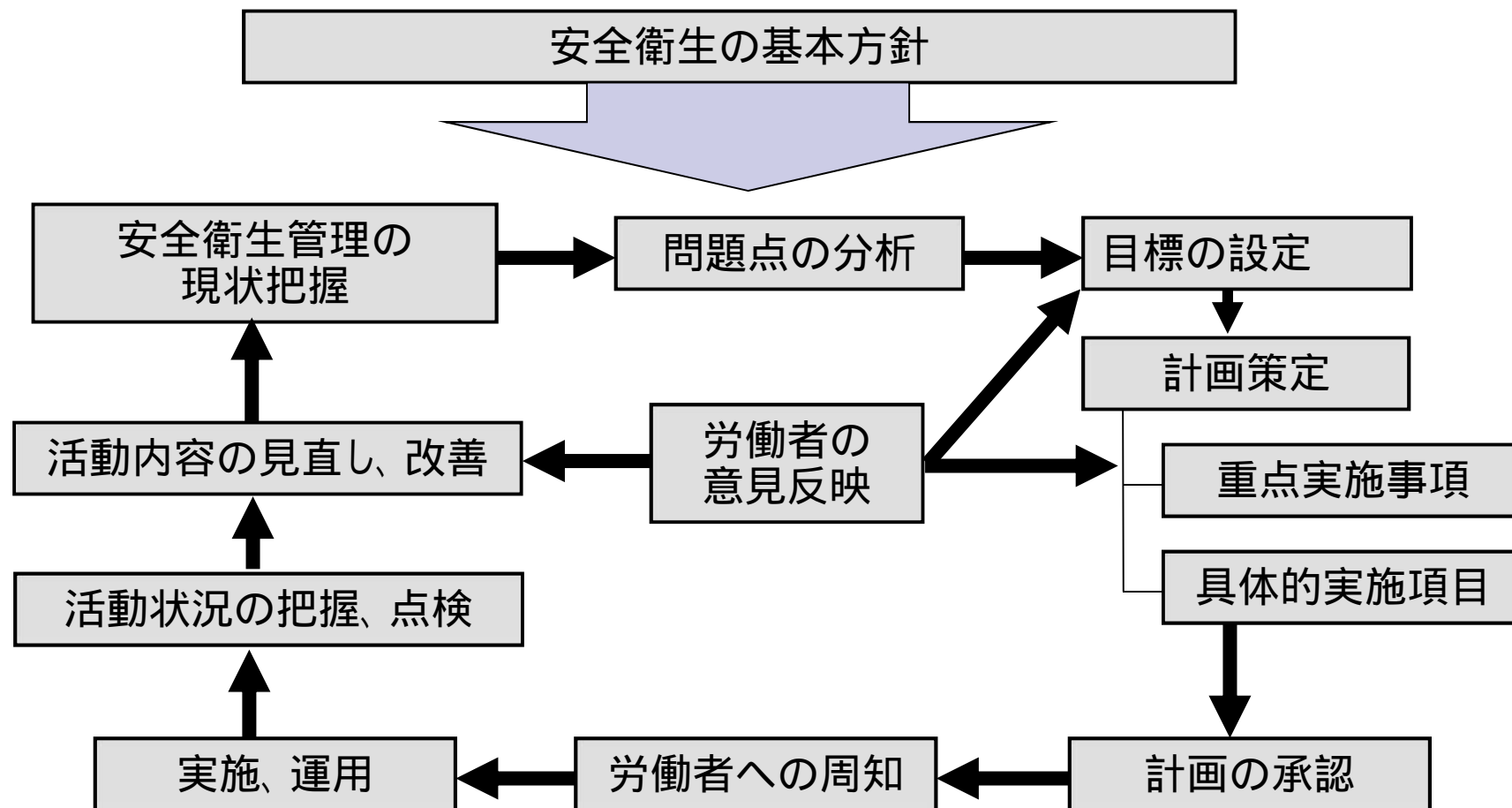
# 安全衛生管理を計画的に行うメリット

- 経営トップが「企業としての安全衛生基本方針」を表明にすることにより、経営トップの安全衛生に対する姿勢、経営活動における安全衛生の位置づけを明確にすることができる。
- 経営トップの方針に基づく計画的、体系的な安全衛生活動により、生産ライン(現場)等と経営トップ、安全衛生スタッフ相互の協力の下、効果的な活動が期待できる。
- 計画の策定段階で、職場全体の安全衛生管理の現状を把握することで、問題点を明確にできる。
- 災害等が発生する前に危険有害要因の把握、低減対策等を行うことによって、先取りの安全衛生対策を講じることができる。
- 労働者に対して、安全衛生に対する姿勢を浸透させ、安全衛生意識の高揚を図ることができる。

## 2 計画策定までのプロセス



# 安全衛生管理推進計画策定までの のステップ



# (1) 安全衛生の基本方針

安全衛生水準の向上を図るために、事業場としての安全衛生に関する基本的な考え方として「基本方針」を示す。

- ◆ 一部の担当者(スタッフ)だけが安全衛生活動を行うのではなく、全社を挙げて取り組むという姿勢を表明する
- ◆ 経営に係る事業実施の中での安全衛生管理の位置づけ、安全衛生活動の具体的な方向性を示す
- ◆ 具体的で簡潔な表現(箇条書きなど)、分かりやすい言葉の方が効果的

☞ **経営トップが表明する基本方針は、全ての労働者に大きな影響を与える大変重要なものである。**

(品質・環境方針等は事業場規模に関係なく目にしますが、安全衛生方針は?・・・)



## 安全衛生方針（例）

株式会社〇〇〇〇は、社員の安全と健康の確保は企業活動に不可欠な関係と認識し、安全で働きやすい職場環境の形成のため活動を行う。

1. 安全衛生関係法令及び社内基準を遵守し、より一層の安全衛生管理の徹底に努める。
2. 労働安全衛生マネジメントシステムを運用により、職場の危険有害要因の明確化と対策の優先度を定めるリスクアセスメントを実施し、“災害ゼロ”から“危険ゼロ”の安全で快適な職場づくりを推進する。
3. 過重労働及びメンタルヘルスによる健康障害を防止するため、管理体制の充実を図り、社員の健康確保対策を推進する。
4. 全社員とのコミュニケーションを図り、全員参加の安全衛生活動を実行する。
5. 社員教育及び社内広報活動を通じて、安全衛生意識の高揚に努める。
6. 安全衛生活動の実行に当たっては、適切な経営資源を投入し、効果的な改善を継続的に実施する。

年 月 日

株式会社〇〇〇〇

代表取締役 △△ □□





## (2) 安全衛生管理の現状把握

過年度の安全衛生活動実績の点検、目標の達成度を評価、計画策定に必要な基礎データを収集して、安全衛生管理の現状を把握する。

収集する主な基礎データとして、

- a. 前年度の年間計画及び活動記録
- b. 過年度に発生した労働災害の記録
- c. リスクアセスメント実施状況
- d. 安全衛生パトロールの結果
- e. 作業環境測定結果
- f. 健康診断の実施結果と評価に関する記録
- g. 安全衛生委員会の議事録
- h. ヒヤリ・ハット事例報告
- i. 関係法令
- j. 職長、労働者からの意見聴取 など



## (3) 問題点の分析

把握した安全衛生管理の現状から、問題点・課題等进行分析する。

- 安全衛生管理体制は充実しているか？
- 前年度の目標、計画に対する達成状況は？
- 作業環境、機械設備、作業方法等に不具合は？
- 労働者の取組状況は？            など

分析に際しては、「なぜその問題・課題が存在するのか？」といった根本原因等を追究する必要がある。



## (4) 目標の設定

安全衛生の基本方針に基づいて、一定期間内に達成すべき到達点を安全衛生の目標として掲げる。

目標の設定にあたっては、

- 安全衛生の基本方針に基づいていること
- 問題点の改善のために必要な実施事項を踏まえること
- 過年度における安全衛生活動状況、目標の達成状況、災害の発生状況を考慮すること
- 高めに設定しつつも実現可能なものを設定すること

### 《ポイント》

安全衛生活動の進捗状況、達成度合いの把握・評価のしやすさを考慮すると、数値化した目標設定の方が良い。

# 数値化した目標とは・・・

- 機械設備の安全化の推進
  - ☞ 機械設備全数の自動化
  - ☞ 全ての安全カバーにインターロック設置
- リスクアセスメント
  - ☞ 全ての作業についてリスクアセスメントを実施
  - ☞ 全ての化学物質についてリスクアセスメントを実施
- 作業環境の改善
  - ☞ 騒音発生源の防音囲いで騒音レベルを80dB以下に
- 健康管理の充実
  - ☞ 健診結果有所見者の、再検実施率を100%に
- 安全衛生教育の実施
  - ☞ 安全衛生教育受講率100%
- ヒヤリハット報告の活性化
  - ☞ ヒヤリハット報告    件以上の提出



## (5) 年間計画の策定

安全衛生の基本方針、問題点等を踏まえて、安全衛生目標を達成するための計画を策定する。

計画の策定に当たっては、

労使一丸となって取り組むことができる

安全衛生水準の向上に実効性がある

内容が求められる。



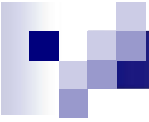
## (5) 年間計画の策定

計画を策定する際には、

- ◆ 機械設備の新規購入や改善に要する予算措置
- ◆ 安全衛生活動を行う上での人材確保
- ◆ 実施時期

など、実行可能性について検討する必要がある。

また、計画段階で「誰が」・「いつ」・「何を」・「いつまでに」・「どのように」実施するのかを明確にする。



## (6) 労働者の意見の反映

事業場において効果的な安全衛生活動を行うためには、労働者の理解と協力が不可欠であり、目標の設定、安全衛生推進計画の策定等の際には、労働者の意見を聴取し、これを反映することが必要である。

労働者からの意見集約

安全衛生委員会

職長会議

朝礼、ミーティングなど を活用

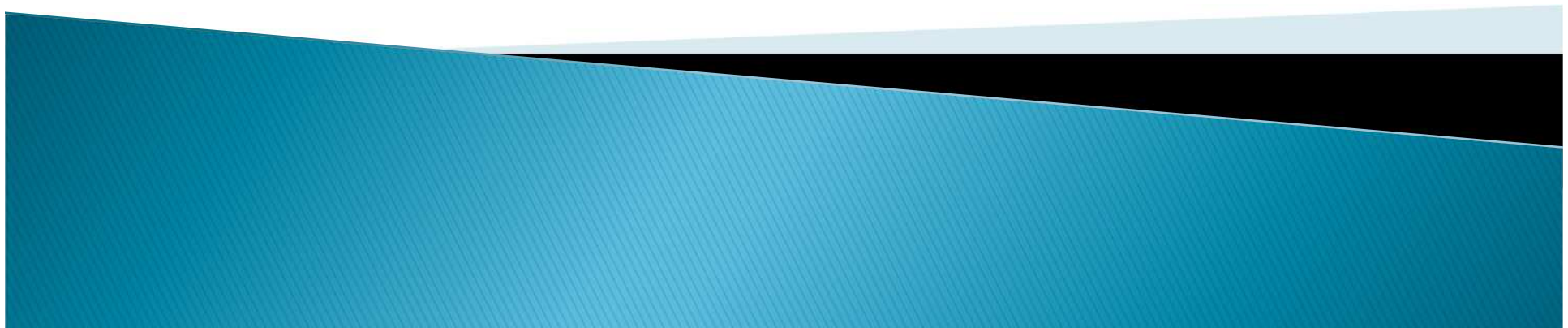


## (7) 推進計画の承認

策定した安全衛生管理推進計画については、経営トップ、工場長等から承認を得て、事業場における事業実施に係る一環として推進計画に基づいた安全衛生活動を展開していく。



# 3 計画を策定したら





# 労働者への周知

安全衛生推進計画の内容、趣旨を労働者に周知し、理解させることによって労使一丸となった安全衛生活動を展開する。そのため、計画内容や用いられる語句は、簡潔で分かりやすいものにすると良い。

## 周知方法の例

- 朝礼、職場ミーティング等で内容説明
- 社内掲示板、従業員用休憩室等に掲示
- 文書配布、社内通信に掲載      など



# 計画の実施、運用

実施した安全衛生活動については、活動内容を記録  
として保存し、安全衛生活動状況を把握しておく。

定期的に、安全衛生目標の達成度、推進計画に対する進捗状況を点検し、的確な安全衛生活動に結び付ける。



## 記録を残しておく・・・

- 担当者に変更があっても、継続的な活動を行うことができる
- 過去の失敗・成功例を現在、未来への教訓とすることができる（安全衛生技術の継承）
- 客観的に評価、比較ができる
- 目に見える安全衛生管理ができる



## 活動内容の見直し、改善

点検結果から、問題点等を洗い出し、今後への改善につなげていく。

安全衛生活動状況に対する点検、見直しが確実に行われるよう、あらかじめ点検、見直しを行う担当部署、実施時期、実施方法等を決めておくことが望ましい。



# 計画を作成する上での留意事項

- 具体的で分かりやすく実行可能なものであること
- 計画倒れにならないこと(PDCAサイクルが重要)
- マンネリ化を防ぐこと(とはいえ、継続は力なり)
- 現場(労働者)の意見が反映されていること
- 労働災害を防止するために有効で継続性のある対策であること
- 本社、支店等それぞれの計画の基本方針や取組みに一貫性があること(ただし、個別の問題点は異なることはあり、本社等による形式的な一括作成で支店等では計画の有無すら知らない等ということでは本末転倒)

## 今こそ適切な安全衛生管理を

- ▶ 労働災害は品質、生産性等にも影響を与えます。
  - ▶ リスク(労働災害・業務上疾病等)の回避は企業防衛の一つです。
  - ▶ 安全衛生管理と品質・生産・施工管理等の事業実施に係る管理が一体となった効率的な経営を目指しましょう。
  - ▶ 「安全衛生対策」に費やす時間、経費等は無駄ではありません。健全な企業等の経営のための「先行投資」と考え、取組を推進しましょう。
- 